

福祉から

編集・発行：富津市社会福祉協議会

第33回富津市社会福祉大会

期日 平成26年1月25日（土）

時間 13時00分～16時00分

場所 富津公民館

大会プログラム(予定)

13:00 大会式典

13:45 記念講演①

被災地(宮古市)の
派遣研修を終えて

記念講演②

いのちを繋ぐ言葉

15:30 抽選会

16:00 閉会

「みんなでつくろう心ふれあうハートフルタウン」をテーマに、福祉功労者への感謝・表彰と記念講演を開催します。皆さんのご来場を心からお待ちしています。



記念講演②

～東日本大震災を乗り越えて～ いのちを繋ぐ言葉

[講師]

防災士・アナウンサー・サイエンスインストラクター

阿部 清人氏

[略歴]

おうちにあるもので、あっと驚く楽しい科学実験を紹介するサイエンスショーを全国各地で展開中。

防災士の資格を持つ防災キャスター(宮城県仙台市のラジオ局アナウンサー)として「東日本大震災の被災経験を交えての講演」と「防災に関する科学実験」を行います。

[東日本大震災発生時の活動]

fmいずみからは震災で放送不能になり、向かったのがNHK仙台放送局。NHKのスタジオで市内の状況をレポートし、「避難所の学校の教室にあるカーテンで、子どもやお年寄りを包んであげて」「新聞紙を服のなかにはさむと暖くなる」「隣の方に声をかけましたか？ 助け合いましょう」など防災士として「共助」の呼びかけをしました。



高齢者生きがい事業のお知らせ

担当の石井です。



この事業は高齢者が補助的・短期的な就労を通じて、自己の経験・能力を生かして働く機会を得て、自らの生きがいを高めるとともに、福祉の増進に寄与することを目的とするものです。現在、150名程の会員が活動しています。

会員登録して活動されたい方

- 1 会員条件 富津市在住の60歳以上の方
- 2 会員登録 入会申込書に記入をしていただきます。また、証明写真2枚(3×2.5cm)、入会金800円が必要になります。

*事業の性質上、定期的な収入や就労ではなく、「生きがい」としての活動となります。

仕事を依頼されたい方

- 1 作業発注 富津市社会福祉協議会へ直接又は、電話でお申し込みください。
- 2 作業内容 草刈・草取り・農作業・家の掃除等(高所作業、重量物運搬等作業内容によってはお請けできない場合があります。)

*詳しい内容を確認したい方は富津市社会福祉協議会にお問い合わせください。

問い合わせ先▶ 富津市社会福祉協議会 ☎87-9611

平成25年度ひとり親家庭中学卒業祝品贈呈のお知らせ

富津市内に在住のひとり親家庭(母子家庭・父子家庭)で、下記の対象に該当する希望者に図書カードの贈呈を行います。

担当の荒井です。



- 【対象】 ひとり親家庭で平成26年3月に中学校を卒業する生徒で申し込みのあった家庭(公立、私立は問いません)
- 【内容】 生徒1人につき図書カード5,000円を贈呈
- 【配布方法】 申し込みのあった家庭へ民生委員児童委員の方が3月に配布予定
- 【申込方法】 平成25年12月26日(木)までに富津市社会福祉協議会へご連絡ください。
☎87-9611

富津市ボランティアセンターの活動

担当の金木です。



相談・紹介

ボランティア活動をしたい方と、ボランティアを必要とする方との間で相談・募集・紹介などを行い可能な範囲で対応。

連絡調整

活動先や団体・個人への連絡調整。

情報の収集、提供

ボランティア活動に必要なさまざまな情報を収集し、情報誌などでお知らせ。

ボランティア登録

ボランティアの登録や保険の加入、活動へのサポートなど。

収集ボランティア

回収物の整理や福祉団体等へ寄付物品の発送手続きなど。

富津市ボランティアセンターに登録しているボランティアの方々の活動として

①社会福祉協議会の事業に参加していただくボランティア

視覚障がい者のための広報誌等の音訳、一人暮らし高齢者のためのシルバーテレホンサービス、子育て支援サロン、ガイドヘルパー、高齢者ミニデイサービス等。

②施設等での協力していただくボランティア

季節ごとに行われるイベント(夏祭り、クリスマス会など)のお手伝いや、演芸ボランティアとして歌や踊り、楽器の演奏等。

③その他に幅広く活動できるボランティア

お話し相手、傾聴、読み聞かせ、作業の手伝い、付添、環境整備等。

④今すぐ誰にもできるボランティア

収集ボランティアとして、エコキャップ・プルタブ・テレホンカード・プリペイドカード・ベルマーク・使用済み切手・書き損じはがきの収集。

風せんのかわいいお便り

先日、社会福祉協議会事業のボランティア活動をされている子育て支援事業の布えほん会員の方がすてきな拾いものをしました。ひもにつなげた小さな少し破れた水色の手紙、西浦保育園と書かれ裏には園児がかいたであろうお星さまの絵が。

さっそく調べてみるとなんと、愛知県蒲郡市から風船とばしをし、はるばる東京湾を渡って届いたものとわかりました。これもなにかの縁だとボランティア事業布えほんで作成した「バースデイケーキ」「おすしセット」「チーバくん」「ふつつん」を子ども達に送りました。

数日後、施設長さんより子ども達が喜んで遊んでいるとお礼のお電話をいただきました。

送った玩具で子どもたちが遊んでいる姿を想像するととても心があたたかくなりました。一つの風せんから遠く離れた地区の子ども達にボランティア事業の活動の輪が広がっていくことを強く感じられた出来事でした。



福祉用具の貸出し(車椅子)

高齢者等で、車椅子の利用を希望される方へ貸出しを行っています。

【利用できる方】 富津市内にお住まいの方

【貸出し利用料】 1週間以内での利用は無料。1カ月の利用で500円。(更新は可能です。)

【申込み方法】 富津市社会福祉協議会事務局にお越しいただき、申請書を提出していただきます。(印鑑は必要ございません。)

*貸出し、返却の際は申請者ご自身で運搬をお願いします。

*貸出しの車椅子は標準タイプとなります。(座席幅約43cm。床から座席までの高さ約46cm)

*子供用は1台あります。

東日本大震災を忘れないために。 そして、これからのために…



▲宮古市鎌ヶ崎地区

東日本大震災から2年以上が経過し、時間とともにこの震災も新聞やテレビなどで目にする機会が少なくなってきました。しかし、被災された方々は、未だ復興途上にあります。当協議会では、この震災を風化させないために研修等を行い災害発生時の対応や復興支援の一助を行うために事業を推進しております。

今年度については当協議会の職員が7月から順次被災地へ派遣研修しました。また、7月6日には宮城県石巻市で当協議会の理事・評議員やボランティア等の方々による「被災地視察及び復興支援研修」を実施しました。

今回は宮城県石巻市の視察に参加された方の感想のご紹介と職員1名の研修報告をさせていただきます。

被災地(宮古市)の派遣研修を終えて

富津市社会福祉協議会 三枝裕文



東日本大震災から2年以上が経過した中で、震災当時の社会福祉協議会の活動、そして現在の復興に向けた活動を研修し、災害時の対応はもとより、今後の地域福祉活動の取組みについて学ぶため、岩手県宮古市社会福祉協議会に7月1日から26日までの期間、お世話になりました。

宮古市の沿岸部や川沿いは津波により、住宅等被害は6,934棟もの被害があり、最大8,889人の方が避難されたそうです。しかし、被災規模は大きいですが地域が限定的(沿岸部や川沿い)なので、地域によって被災に対する温度差があったとのことでした。

震災当時の宮古市社会福祉協議会の活動として、①通常実施している事業(デイサービスや訪問介護事業所等)の利用者の安否確認を実施。



▲宮古市田老地区(世界最大級の防潮堤)

②行政からの依頼により福祉避難所を53日間開設(延べ175名避難)。

③災害ボランティアセンターを関係機関と連携・協働により開設し、ボランティアと復興支援を実施。以上をメインとして実施しておりました。

その後は平成23年9月13日に災害ボランティアセンターの機能を残しつつ、「宮古市生活復興支援センター」に移行し、地域の復興支援と仮設住宅入居者への支援を開始しております。

復興支援として気をつけていることは、社会福祉協議会が全面的にでるのではなく「自立・再建に向けた」側面的・後方支援的な支援を行い、地域住民が主役となり、今後も「共助」により復興が進むように活動しております。ただし、津波により、地区の住民が仮設住宅に入居することにより、自治会の運営ができない地区があり、その地区の復興は中々進まないとのことでした。

本研修を振り返り、災害時等の緊急時の体制整備、また有事の際には速やかに「協働型」の体制をとるために、常日頃から地域福祉活動を通じて関係づくりを行う必要があると感じました。また、平常時の活動の積み重ねが災害時の活動に繋がることを再認識させていただきました。

最後に、被災地の一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

「被災地視察及び復興支援研修に参加して」 Y・Sさん

7月6日被災地(奥松島野蒜地区、最大被災地石巻地区)を車窓からと、現場で現地ボランティアの説明を聞きながら視察しました。2年余過ぎた現在も被災物は集積されて不処理状態、集落地域は全壊又は住家は津波により移動し、孤立したままの状態を見ると津波の怖さを実感しました。

説明によると、奥松島は200余りの島で包囲されていたため津波が最小限に食い止められたこと、野蒜駅で行き違った電車が発車1分後に津波に襲われ、車内の乗客の機敏な判断誘導により難を逃れた方、かつき亡くなられた方もおられたとのこと、石巻地区では海岸近くの工場は前日に訓練を実施し人的被害が出なかったこと、住民は以前の津波が脳裏に浮かび避



▲野蒜駅で地元ボランティアガイドの話を聞く

「遙か被災地を訪ねて」 S・Iさん

未曾有の東日本大震災被災地の様子をこの目で確かめたいと予てより思っていたので、富津市社会福祉協議会の今回の計画に賛同し、出席を決めた。

その計画は「宮城県石巻市及び奥松島視察と復興支援研修」で社会福祉協議会理事とボランティア関係団体からの希望者76名が参加した。

7月6日 6時15分市役所を出発、松島に12時30分に着いた。ここは多くの島々が自然の防波堤になって被害が少なかったようだ。

次に奥松島の野蒜地区、ここは宮城県屈指の景勝地であったが、津波の被害は甚大でほとんどの家屋は全半壊、犠牲者は1,100名。

野蒜駅から地震発生1分前に上下両方向に分かれて発車した電車。一方はマニュアル通り乗務員が誘導中津波にのまれて30名が犠牲に、他方は高台走行中、乗客のお年寄りの指示で電車の中で過ごし、全員無事で明暗を分けたようだ。

1.3メートルも地盤沈下したこの辺りは、伸び放題の雑草に覆われ、この地にあった145軒の民家は海の中だと、地元ボランティアガイドの説明があった。線路わきで犠牲者に生花、線香を手向け全員で合掌、

難行動を取った方もあったとの話もありました。

両地区(野蒜駅、石巻)で献花し参加者全員で亡くなられた方のご冥福を祈ってきたところですが、震災は如何なる場合に発生するか分かりません。普段からの訓練、準備を心掛けておきたいものです。



▲この家は津波で流されてきた



▶ガレキや車が集められている

犠牲者の無念さに思いをはせた。

次に宮城県最大の工場地帯石巻市を訪問。海辺の広大な土地は、丈の高い草の野原のみが続き、かつての面影はない。津波の直撃を受け4,000名もの死者、行方不明者を出したこの地は、現在も被害に遭った車両などガレキと共に山積みになっていた。地元ボランティアガイドの説明によると「車も船も家も一瞬にのみこんだ津波は、平常の一般廃棄物23年分を1日で発生させた。これらのガレキも今年度中に処理予定」とのことであったが、まだ復興半ばの感を受けた。

最後に被害を受けた店舗が入る仮設「復興ふれあい商店街」で、支援のための買い物をした。商店街の人々の明るさ、たくましさ元気もらい買い物にも熱が入った。

今回の視察を通して、天災は何時何処でも起こりうるから常に強い防災意識を持ち続けることが必要である。そして、この大震災を決して風化させてはならないと強く思った。その為に私達は被災地で見聞してきたことをなるべく多くの人に伝えて行こうと思う。

第11回福祉バザーが開催されました。 担当の鈴木です。



たくさんのご来場
ありがとうございました。

10月19日（土）、富津市総合社会体育館で第11回福祉バザーを開催しました。当日は24団体と一般有志4店が出店し、出店関係者を含めて、約1,200人以上の方々にご来場いただき、大盛況のうちに終了することができました。バザーの収益金は、各福祉団体の活動資金として活用させていただきます。

皆さまのご来場ご協力ありがとうございました。



第63回千葉県社会福祉大会・ 第17回千葉県民生委員児童委員大会が開催され、 富津市で、4団体及び16名の方が表彰されました。

本大会は、県内の福祉関係者が一同に会し、多年にわたり社会福祉の発展に功労のあった方々を表彰し、感謝の意を表すことにより、もって本県の社会福祉の一層の発展を図ることを目的に11月11日（月）千葉県文化会館において開催されました。表彰者は以下のとおりです。おめでとうございます。



富津市受賞者紹介（順不同・敬称略）

【千葉県社会福祉協議会会長表彰】

- 社会福祉施設・団体関係役員 功労者
加瀬愛子 鈴木著代
- 優良市町村社会福祉協議会地区・支部功労
大貫地区社会福祉協議会

【千葉県民生委員児童委員協議会会長表彰】

- 永年勤続民生委員・児童委員表彰
在原寛子 井上紘子 秦野裕行 森田 一
坂井東子 高橋良充 山田治幸 山崎 豊
神子マツ 藤平千代子 磯部雄三 飯田昭一
池田和子 島野一郎

【千葉県共同募金会会長表彰】

- 共同募金優良地区・団体
富津地区 大佐和地区 天羽地区



ユニバーサルデザイン（UD）の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



環境に配慮し、古紙配合率70%の再生紙
及び植物油インキを使用しています

禁無断転載